



指

近藤氏藏書			
一	四	歴	和
〇	六	史	書
冊	號	函	門
		類	

U 5
6039
10



リ5
6039
10

解題ハ
物語ヲ
除ク
記セ
リ再思
スル可
ラス今
太周記
原本通
リ一字
ノ増減
ヲ為シ
ス翻刻
ス他
解題ハ
改作ス

八物語之起

夫惟内丹物語也。余記ハありす。惜乎聖經

賢傳之書。汲ふ人々。一人ハ曰く。めれと。

理義之曉。一。契。て修。實。い。と。く。め。れ。と。是。何

の碍。そ。や。唯。河。乃。花。多。き。者。め。れ。と。ん。と。と

の好。し。と。く。理。乃。心。當。と。不。考。め。れ。と。在。り。訓。話。詩

章。と。強。て。事。と。と。道。此。甚。大。あり。と。と。と。と。と

と。と。ある。と。又。及。弟。之。法。行。ま。は。ら。め。と。あ。ん

か。と。され。ん。め。と。初。ま。之。と。仁。熟。せ。ん。は。便。な。く

義。精。と。と。と。と。と。是。然。の。大。あり。と。と。と。と。と

昭和五年
六月三日
八幡宮
大倉

吾約く僻たふる也。性力乱邪く、術と云く、
 致知格物之学に入らば、書ハ古今うまれたり。
 博學養才か海人、の能き家文也もあつる。
 千災と高驗く、貴僧よ使里。おんは弟福と深
 徹く聖祝く来く西乃とせせと。うー何一な
 あらゆる張まあはれ、教りや弟は積あは山
 をも争ふ計あり。一運何國痛の良業ありんや。
 毒味那うへー。おんよ心盲れ也。
 本根といあらん。あはれと語く。のう
 史あんと、修方奇家く、家史かあじと世ん

あつる此のうよく、一娘。予も亦添、
 記之、誰ハ云の案の落う、あつるもあ。文章
 の連続もは、くー。あつるん云ハ多まれ也。
 古一人と、規程となまり、き法乃記、
 経之、古よ引合。理義く、當否其務、
 是難く。世中乃とせと。あつるよ、
 るよ、はうとく、ゆりて。地家乃事、
 事一乃のそり、きは多。あつる又、
 更ハ、まのハ、と指り、
 も、りす、將痛、ま、案、
 感、ん、あ、る、

大陪元二十

四大儒乃書と臣と友と心と。且心と及事と心と
 らけつ。秘物小記。一付。漢学同志の心旨とひ
 きんんりつとあけき思へた。年ハ老也のりし
 かりき。其心と事と畫さる。病は鶴
 乃此とこの程さり如。ありとて心人事
 心にお。いさや世事と心。一。玉さくあり人乃
 笑みこれ程まよそんよとて初む。乞ひ書の起
 なるま。予。備列二。刀。蒲。久。久。信。何。気。和。二。仲
 善みりり。記さく。

大商記八物緒上目録

君臣友用

- 一有^{タモツ}國家柱^{ハミラ}八^カあり
- 一重^ス神^ス器^ラあり
- 一論^ス天下^ス國家之^ス大用^ラあり
- 一修身^ス段^ス國^ス病^ス之^ス至^ス劑^ラあり
- 一人^ス之^ス出入^ス門^ス凡^ス三^スあり
- 一得^ス一^ス取^ス百^ス才^スあり
- 一推^ス國^ス朝^ス政^ス勢^ス知^ス國^ス病^ス之^ス六^ス根^スあり
- 一禁^ス用^ス於^ス御^スあり
- 一法^ス陳^ス於^ス國^ス家^スあり
- 一天^ス地^ス之^ス万^ス物^ス之^ス中^スに^スあり
- 一善^ス知^ス事^ス之^ス道^ス若^スし^ス道^ス之^ス善^ス也

君道

附^ス於^ス秀^ス才^ス人^ス大^ス臣^ス之^ス職^ス

一結^ス人^ス心^ス之^ス繩^ス

一海國挽力

一木材用不則切弊

一薦筆務已才者為賢

一治乱之表

一一粒弟倍と成と云は才

一弟物生よるよハ必程

政要

一行政道ハ正理為本

一國家之吉凶依政道之吉凶

一政の要ハ用能人為也

一悪人と治るやうの事

一賢君用秀才

一世多論有忠之長

一法令可初之申

一賢才君志立論

一弟の才よあき病せる

一消悪心止む人我之争

一小人之秀才論

一才用一人多弟人の心志のり

一守國家以知教抱為要

一論大人之大志

一君深思英傑之士則自志来服

一嚴島英才天憐民苦

長道

一每物あるまゝ変之則近道

一人来不吉則天のころあ有一士之格

為學子

一曠學子之要

一學子ハ二勤二病

一以中道可成者般事
 一子思理之西也
 一論儒學
 一論學之美
 一學之三弊

八物經書上

○君臣之用



治世之國桓ハ本有之。能知賢大早に階級の
 勇ありと。去小人の道程を私心。儒學之美理と勤
 め約。軍法之真。熟。一。与取おと撰。事。の。小
 。知天下國之務。子。終。業。久。あ。久。き。を。と。天下
 之。可。乱。排。と。知。と。猥。寡。孤。獨。と。恤。ひ。の。根。子
 入。之。路。く。本。善。之。善。止。く。不。移。と。也
 評。曰。は。八。皇。天下。と。有。つ。て。さ。家。制。あり。國。之。約
 又。此。勤。と。て。み。る。さ。あ。の。美。の。あり。と。小人。と

一浮利子溺て、寶劍とゆふ。一由やがと乱
 一名と汚と事一世に多し。孰古今此盛衰
 と窺ひ親あり。此子乃理は爲りと不當の處
 一八と事の本心と虚めて現はれしと、實
 一能得するの處りて國柱いと此より、立て
 寶劍益あらあり
 推國朝之政勢、六國病之六根事

- 不義之謀
- 變色之言
- 小人之指
- 弑君之候
- 爭鬪之患
- 不正之恨

上曰上有

一自もの用
 勇猛之候
 好利之情
 汗曰治六根之病才ハ昔今ハ此の處とて、意
 改め徳義とみるは在。夫天地ハ万不射の物也。
 上施善政則下に廉士多し。下回やうき人心
 淳也。上以刑政則下に奸人多し。て回免く士
 庶人そよみのれと射を九とたむさうけし。く。
 威や好む物也。先古とて、國情

則下有

- 不讓之人
- 好亂之士
- 盜賊之民

不易之人心方り

一重神器

天下者大器也。有_レ此器_レ人_レ有_レ負_レ此器_レ者_レ天子者_レ有_レ此器_レ人_レ也。宰相者_レ負_レ此器_レ者也。匹夫有_レ百金之器_レ則_レ擬_レ其_レ負_レ者_レ擇_レ其_レ負_レ故_レ重_レ其_レ人_レ也。

浮曰。天下事_レ物_レ其_レ善_レあり。况_レ回_レ善_レ乎。回_レ善_レ重_レは_レ善_レ其_レ利_レを_レ駭_レ呼_レ拙_レ乎。と世_レ回_レ善_レ才_レと_レ擇_レ用_レる_レ事_レと_レか_レと。是_レ定_レは_レ盲_レ者_レ相_レと_レ失_レひ_レ海_レ魚_レ水_レと_レあ_レる_レか_レ。豈_レ其_レ利_レあ_レんや。世_レ乎_レ浮_レ利_レと_レ進_レめ_レ窮_レと_レ來_レる_レ信_レ人_レと_レ舉_レ用_レの。

性目と悦びぬ御心とありす利あり上下と初

しやろ。誠_レ不知_レけ_レ利_レを_レる_レ耽_レ毒_レと_レ歎_レふ_レと_レ或_レ問_レ負_レ神_レ器_レ人_レハ_レ誰_レぞ_レ也。對_レ曰_レ矣_レ於_レ中_レ伊_レ傳_レ周

召_レ我_レ釣_レし_レそ_レい_レ忠_レ仁_レ公_レ平_レ恭_レ時_レホ_レ也_レと_レも_レ个_レ也_レ是_レハ_レ皆_レい_レろ_レく_レ負_レぬ_レし_レか_レり_レと_レ外_レ也_レ又_レ負

ゆ_レく_レ治_レ候_レ夫_レ夫_レし_レ強_レ上_レり_レ人_レ古_レ今_レ多_レし_レ。重_レ此_レ器_レと_レる_レハ_レ本_レあり_レ二_レ帝_レ三_レ王_レ之_レ治_レ法_レ是_レと_レ也

なり。治_レ法_レも_レ亦_レ道_レと_レい_レふ_レと_レす_レ乃_レ心_レと_レい_レふ_レと_レ也_レ。精_レ一_レ執_レ中_レハ_レ老_レ舜_レ禹_レ湯_レ傳_レ授_レく_レ心_レ法_レ也_レ。

建_レ中_レ建_レ格_レハ_レ高_レ湯_レ周_レ武_レ也_レ傳_レく_レ心_レ法_レ也_レ人_レの

仁とく可く恩義の厚為清くく仁に
 漢く。師道めく。仁義化をく。君心
 乃為也。國を治く。法礼刑をく。乃之
 一禁用於術
 善陽花氏曰。易曰。天下之動貞未一也。朝廷若
 重は黒物も少く。呼心く義大なり。心あり。
 一禁用於術
 家齊曰。治る天下平なるは君心之推也。君
 善推のこといふ。君心之推也。君
 一禁用於術
 重は黒物も少く。呼心く義大なり。心あり。
 一禁用於術

四方之極也。非至公無以絶天下之私。非至正無以
 止天下之邪。入君一不正其心。則無以正萬事。尚以
 術治下。是自行詐也。何以禁天下之欺乎。是則行
 而欺愈多。知用而心愈勞。
 一論天下國家之大小用
 夫曰。比副律至乎。天下必家安寧。能治り。美
 果敢の甚く。おの。漢の。
 一論天下國家之大小用
 夫曰。比副律至乎。天下必家安寧。能治り。美
 果敢の甚く。おの。漢の。
 一論天下國家之大小用
 夫曰。比副律至乎。天下必家安寧。能治り。美
 果敢の甚く。おの。漢の。

とて亦は月ありてさうさうとて。挙用ゆと金銀あり
財寶とて納く。唯は此ひるすとの二事なりと
大用あり。い二事始むと。則治道いとめてさうさう
上ゆらうに業へ下するは富る物あり。楚客
饒氏曰。天下く大用唯用久と理財二事最大也。
活曰。君のたむ賢なるは此二事。富業と下
和まふ備へて。能死とせん取る物也。
一諫は。治ては國家事と海と
齊威王の信は。鄒忌と云人ありて。さうさうを
なり。さうさう又城は。徐とて。齊國は。いひて。臨

介は。さうさう人あり。或は。忌衣冠。さうさう。さうさう。後。は。向
て。謂。と。妻。曰。我。と。徐。と。さうさう。妻。曰。君。い
甚。并。也。徐。云。何。そ。及。ん。也。又。曰。其。妾。妾。又。妻。の。言。に
同。客。あり。俱。は。坐。して。治。と。さうさう。の。君。と。徐。云
と。孰。の。義。を。於。客。曰。徐。云。君。の。并。は。及。也。翌。日。徐。云。温
問。一。事。子。良。か。さうさう。ひ。ぬ。忌。後。と。そ。う。め。看。て。云。と。其
并。と。治。と。云。う。并。甚。増。事。り。中。東。あり。て。思。之。我
妻。妾。た。よ。我。と。并。一。若。も。又。甚。と。さうさう。其。来。と。後
小。の。実。は。あ。さうさう。さうさう。思。ひ。ゆ。さうさう。の。さ。ま
齊。地。は。方。千。里。百。二十。城。と。さうさう。文。物。は。亦。莫。不。私

王。於廷之臣。莫不畏。王。言。皆。之。内。莫。不。來。於。王。
 世。以。親。之。王。之。蔽。甚。多。如。人。と。諫。より。王。曰。
 鄙。忌。の。云。尤。善。今。より。後。下。諫。を。諫。之。と。や。く。と。
 令。と。出。り。過。失。と。改。補。せ。ん。と。て。
 一。寡。人。の。過。と。諫。争。せ。ん。と。不。ハ。上。貴。
 一。上。去。り。て。密。諫。せ。ん。者。は。中。貴。の。事。
 一。諍。市。の。と。告。せ。ん。者。は。下。貴。
 之。を。令。お。の。た。に。依。り。諫。と。す。り。人。の。門。庭。に。充。滿。
 せ。り。及。數。日。流。書。激。ま。れ。たり。過。失。と。改。め。あ。り。
 事。急。あ。り。り。の。事。來。衆。より。諫。之。事。あ。り。して。

貴子のつりゝゝ怠りぬ。隣國を致はば。國より。ひき。
 趙韓魏之君皆。齊より。ひき。事。と。ら。ん。心。
 朕。と。お。く。と。鄙。忌。の。職。祿。庶。人。の。上。は。在。

評曰。忌の忠尤夥し。何事の忠に。上。は。ち。ん。也。
 或曰。君の。く。つ。る。ま。た。ん。賢。人。諫。言。は。必。ず。し。其。の。

一。修。乃。醫。國。之。聖。劑。

言。は。儒。醫。並。備。り。一。老。人。の。國。王。曰。四。書。五。
 經。を。お。の。之。祥。書。お。に。記。し。と。く。は。治。世。平。天下。し。
 言。め。て。又。備。と。し。一。萬。民。乃。疾。苦。と。安。ん。せ。ん。と。

の乃乃。予亦志之。志乃の志と國政事志け
 かの服いくとくあふされし。普くやう細
 評さるるゆとゆと。釋書に、理義はくまやふ
 て醫國病要薬ありむ也。然い変用し服せ
 謝曰。然るり。一國於一才也。必あふ不能立聲。於人
 之不能立聲。疾病也。されハ榮運之務後。は國之疫
 疾と。たふく患ある事あり。良醫の薬と用
 のをも病愈るるこく。治國病と。治才あり。こも
 三味。一曰修身。二曰任賢。三曰畏天。此好劑と用ぬ。
 實は私と志しり。一府の國を治る病不愈と云

事一の。是百發百中之聖母也。かろゆ人ハ禁
 忌禁好抄あり。修身之禁ハ。私心与豫急。私欲与
 非義なり。好ハ理め。こに心西。きとあり。
 但賢之禁ハ。諛者与極楽あり。好ハ高湯の伊尹
 と舟楫乃。こく。好ハ竹やあり。
 思天之禁ハ。欺誑と放心とあり。好ハ合天心のこ。
 一天地之君。あふ。たりの抱三あると。

天有至醇地有至熙君有至則天失其醇第物
 喪精地失其熙万物弗整君失其至則四極不立
 評曰。天地ハ大其好也。後るに君とてこく

鮎あせよゆり流ながる。ふる。ふる。思おもひあふ。中ちゆう。坊ぼう。り。
 けり。お君みこと。より。た。と。勤こめ。流ながる。と。ぬ。の。天あま地ち。の。神かみ。よ。
 宵よ。こ。ゆ。り。ぬ。儀ぎ。と。ぬ。の。君みこと。よ。の。真まこと。言こと。得とく。よ。り。
 て。こ。を。代か。を。亡な。し。ひ。あ。り。—
 一ひと。人ひと。之の。出い。入い。門かど。凡たゞ。二ふた。者にん。

情こころ。欲ほ。より。お。入い。者にん。の。自みづか。是こゝろ。會あ。門かど。礼らい。義ぎ。より。お。入い。
 者にん。の。月つき。乞もと。人ひと。の。獨ひとり。知し。より。お。入い。者にん。の。月つき。乞もと。聖せい。門かど。也なり。
 一ひと。義ぎ。真ま。道みち。知し。者にん。の。路みち。へ。ん。安やす。く。り。あ。る。事こと。

龜山かみやま。教しやく。乃すなは。池いけ。よ。大おほ。井い。の。池いけ。水みづ。と。ま。さ。う。せ。く。ま。さ。ん。と。て。
 大おほ。井い。の。土つち。民たみ。よ。お。お。せ。く。水みづ。車ぐるま。と。使つか。せ。く。れ。る。也なり。

多おほ。乃すなは。の。ゆ。と。流なが。る。數かず。則すなは。ち。い。と。も。さ。か。て。り。け。り。
 月つき。け。あ。よ。大おほ。の。ゆ。め。く。り。さ。り。な。れ。た。ど。う。く。ま。さ。ん。
 け。事こと。を。流なが。る。ま。り。と。流なが。る。ま。り。と。り。え。り。を。ま。さ。ん。
 治ち。の。里さと。人ひと。と。め。て。あ。ら。ん。せ。ま。れ。し。や。い。と。も。さ。か。て。り。け。り。
 云い。て。ま。り。と。せ。げ。ふ。り。思おも。ひ。あ。ら。ん。せ。ま。れ。し。や。い。と。も。さ。か。て。り。け。り。
 け。り。事こと。を。流なが。る。ま。り。と。流なが。る。ま。り。と。り。え。り。を。ま。さ。ん。
 や。び。い。と。も。さ。か。て。り。け。り。

評ひやう。曰いは。ゆ。は。道みち。と。し。と。し。と。人ひと。を。知し。た。り。と。い。は。る。也なり。
 宜よし。は。ゆ。く。け。り。ひ。さ。し。遠とほ。く。り。と。し。と。あ。ら。ん。せ。ま。れ。し。や。い。と。も。さ。か。て。り。け。り。
 也なり。評ひやう。曰いは。ゆ。は。道みち。と。し。と。し。と。人ひと。を。知し。た。り。と。い。は。る。也なり。

大井

て任せてはらまうくはなれぬとあつてさうなす。國
政に即ち御お遠のるのまはゆるき世にさうなす
はあ〜。國政遠ひぬまはゆるき世にさうなす
汚名世にさうなす。新後ともゆるき世にさうな
成ぬ。築封もあつて

一得二百と取本とせ

得十良馬不如得一伯樂 均地千里不如得一賢士

評曰周文王ハ太宗なりとて天下ハ百六十年
太平ありき。寔ハ此教奉多

○君道

一秀才の人ハ大任ノ職ヲ附与スルヲ試ム論

國ハ大事ナリ大任ノ職ハ居キ才ト見スルヲ務
ムルニ在リ。其才アリハ人トシテ人ノ才ハ
已ト利ナリ。其才ハ或ハ忠ト云ント思フ。其
象ノ強ヤ吾ト審ム。或ハ試ムルニ在リ。或
大才ナリ棟梁ナリ人物。其才ノ廣狭也。或
其剛服セシムルノ地トシテ。其才ノ量也。
或嶮岨ナル人乃境ノ才トシテ。其才ノ操也。或
其才ハ別懸ク其才トシテ。其才ノ裁也。或
其才ハ未萌ク其才トシテ。其才ノ試也。其才ハ

久しく其用と事と已熟して海に
魚一。新試よ。魚一。全倭一。人ハ天才
里。賢士也。能く其用一。あま一。あ浅く用
きは。天罰を。侍事一。とくしん
一結入心祀繩

或曰。初と末ぬる繩あり。天下國家は。志と末ぬ
る繩ありんや。對曰。然。是。志。乃。教。と。末ぬる。人。等
法。有。淺。と。貴。と。侍。繩。あり。教。と。末ぬる。葛。藤
あり。志。と。束。ぬる。小。組。あり。ら。る。士。心。と。束。ぬる。人
義。有。あり。夫。義。は。精。一。は。四。上。下。わ。ら。る。也。

志と末ぬる長能忠と甲少は。美。も。て。國。家
安。ん。か。る。也。不。結。士。心。則。君。ハ。疑。信。長。ハ。恨。君
心。出。來。侍。と。く。い。下。や。い。く。す。也。也。也。
あ。や。少。心。き。え。や。め。也。也。

一海國勢

天下國家古今乃變とんるに。威。衰。強。弱。ハ。兵
力。ハ。あ。ま。し。く。也。西。勢。ハ。左。財。有。め。と。あ。ま。し
て。人。心。ハ。上。ま。惟。る。一。國。勢。と。て。人。心。と。安。ん
し。め。財。と。て。民。心。と。安。ん。上。下。と。わ。け。也。每
お。い。く。も。建。ん。の。威。を。の。つ。く。也。成。して。治。勢

尤喫し、かくて財と治る財ハ財豊あり。兵と治
 分財ハ兵強し。國勢未強しと患へ急は振らん
 事と欲し、して振る威形と云ひ、く、研る様
 事、振る事へ、振る取飲と居と承め、事、研
 感つる、れ、乞十、衆、見、以て、壯男の才力、
 形、意、として、大、と、せ、び、小、同、能、漸、積
 國勢、ある、事、と、知、る、一、國勢、と、承、不、道、ハ、事
 と、修、め、仁、義、と、事、と、西、長、一、職、祿、と、篤、一、忠、信
 友、位、と、増、控、柄、を、舒、是、と、承、教、ひ、よ、在
 一、悪、人、を、治、る、や、り、乃、事、一

國家よ、は、の、り、を、承、人、能、と、れ、と、事、乃、多、と、い
 と、ひ、く、数、テ、事、之、制、法、の、と、い、ま、れ、し、と、悪、心
 と、承、柄、あり、唯、な、の、事、と、改、め、所、と、い、ま、る、や、り
 一、大、也、と、い、ま、る、柄、。長、人、と、す、め、事、悪、人、と、了、了、み
 一、和、也、と、い、ま、る、柄、。一、度、に、あ、れ、ひ、罪、の、重、と、い、伐、一、
 一、い、流、罪、と、い、ま、る、柄、。一、め、り、と、い、ま、れ、し、止、め、又、承、人、の、起
 一、元、と、事、と、い、ま、る、柄、。一、西、す、め、と、止、め

一、大、功、と、い、ま、る、柄、。一、用、分、財、ハ、功、す、く、と、い、ま、る、柄、。
 養、驥、驥、者、豊、其、芻、粒、潔、其、羈、絡、居、之、新、雨、浴、之、
 清、泉、而、後、責、之、千、里、類、鷹、獲、一、雉、飼、一、雀、獲、一、先

飼二鼠彼知不盡力於擊則不得食故為我用也蘇子

評曰。彼鼠よ本よ思ひ合ふものなり。信長云々
千里の馬よこゝ食と豊ゆものなり。これハ
蘇三左衛門。氣坂井右近將監。志本水太夫。新
三右衛門。流羽。赤坂山城守。瓜牙。長。下。下。
た。大才と少よ用にあらず。小依と。上下。下。
版作り。信長云々。わ。と。支。あ。て
收ひつ。篤く。聘。一。取。古。た。了。了。寵。一。給
ゆり。ゆ。ゆ。尾。列。橋。生。合。我。味。方。心。外
免。る。と。森。軍。機。と。天。口。く。進。退。交。り。以

媪

諫りせし。信長とて。いひく。計よ。信。長。を。終
ひ。大。敵。と。思。外。よ。碑。き。あ。ひ。い。と。世。ハ。一。力
石。乃。士。と。聘。一。給。く。七。八。千。石。徴。ひ。後。一。能
士。と。持。持。せ。り。揚。出。と。信。長。云。と。云。て。自
持。せ。り。かり。信。長。云。と。云。と。馬。食。令。一。き。附。ハ
後。是。此。如。ひ。る。と。古。語。曰。賢。者。天。下。之。善
射。者。也。無。弓。則。無。所。見。其。功。太。儒。者。善。調。天
下。者。也。無。百。里。之。地。則。無。所。見。其。功。と。云。
賢。君。用。臣。下。と。秀。吉。云。

哀公問孔子曰。世何事乃君之賢者。孔子對曰。

立末之見也。せめてハ衛の志を云ふのり。云吾のや。そ
 闔門の内別るる事あり。然らずと賢は継つく人を
 孔子曰。是を招きて事をたりとや。不
 論其私家の後也。云曰。其い何と云ふのそや。對曰。
 君の身は年と云ふ一人の事を智し年との家
 と信んず。信んず。信んず。信んず。信んず。
 て仕す。又士は林園と云ふ若しあり。身の他の使しと云ふ
 賢ある。後知則必心を退るてい責する人に。此の職位
 譲らふ。亦さたは是を招きて事をたりと賢は継つく人を
 と云ふ。又士は林園と云ふ若しあり。身の他の使しと云ふ

則は必ず心を退るてい責する人に。此の職位
 譲らふ。亦さたは是を招きて事をたりと賢は継つく人を
 と云ふ。又士は林園と云ふ若しあり。身の他の使しと云ふ
 賢ある。後知則必心を退るてい責する人に。此の職位
 譲らふ。亦さたは是を招きて事をたりと賢は継つく人を
 と云ふ。又士は林園と云ふ若しあり。身の他の使しと云ふ

大南堂

十五

とまるとや。賢と多財と以賢とせんや。子夏曰賢
を争ふると以賢とせん。子曰然。吾嘗と鮑叔ハ達
爰仲子ハ達子産也。或や二子ハ達賢已之
才也也

一世に多く不忠と長らるると痛む
塩氏通明先生曰。世ハ教悪習悪よおふふら
のくく。名と知ぬ河老のまけとくおんおらぬ
守りまると裁せり。古今乃宰相を司又ハ

道習之長お己り職分とハ勤めと不敬と松法
齒儼と中よきくまう。政道と乱と士庶
人の恨と君と及び。或ハ怒せぬと職と君。或ハ
他人の長とは空と。親と子中此短才とハ宜
く云あり。賢と二階と。或ハ難密死佐乃
大居と皆團蓋也。是ハ知と。一と。一と不忠也。
孟子曰梁惠王曰寡人私ハ安と。孟子曰教
以禮と。有ハ異乎。曰無ハ異也。以女と。政有ハ異
乎。曰無ハ異也。曰庖と。肥肉と。肥する民と。餘
又野と。穢と。子ハ奉歎而食人也。

評曰直子^{いひ}執事^{しつじ}とるゆゑありす。又直子^{いひ}教
久しあ^{いひ}く^{いひ}れ^{いひ}せ^{いひ}。其^{いひ}教^{いひ}悪^{いひ}し^{いひ}及^{いひ}ゆ^{いひ}同^{いひ}
事^{いひ}あり

治乱^{ちらん}の^{いひ}表^{いひ}

治

義泰寛^{ぎたいかん}

可

之^{いひ}表^{いひ}系^{いひ}

之士^{いひ}振^{いひ}威^{いひ}而^{いひ}其^{いひ}度^{いひ}量^{いひ}

乱

利^{いひ}峻^{いひ}嚴^{いひ}

狭^{いひ}

廣^{いひ}

法令^{いひ}下^{いひ}私^{いひ}之^{いひ}本^{いひ}

法^{いひ}及^{いひ}の^{いひ}能^{いひ}下^{いひ}立^{いひ}く^{いひ}中^{いひ}心^{いひ}已^{いひ}と^{いひ}而^{いひ}く^{いひ}私^{いひ}怨^{いひ}と^{いひ}宗^{いひ}
と^{いひ}以^{いひ}則^{いひ}下^{いひ}く^{いひ}用^{いひ}て^{いひ}法^{いひ}由^{いひ}は^{いひ}邪^{いひ}ま^{いひ}く^{いひ}民^{いひ}淳^{いひ}

たり^{いひ}ぬ^{いひ}世^{いひ}に^{いひ}き^{いひ}ん^{いひ}制^{いひ}物^{いひ}の^{いひ}多^{いひ}し^{いひ}て^{いひ}法^{いひ}令^{いひ}下^{いひ}私^{いひ}之^{いひ}本^{いひ}
さ^{いひ}る^{いひ}物^{いひ}あり^{いひ}。唯^{いひ}法^{いひ}及^{いひ}乃^{いひ}子^{いひ}多^{いひ}の^{いひ}ん^{いひ}下^{いひ}り^{いひ}。亦^{いひ}私^{いひ}怨^{いひ}
け^{いひ}一人^{いひ}奉^{いひ}用^{いひ}ゆ^{いひ}ん^{いひ}は^{いひ}

一粒^{いひ}黍^{いひ}倍^{いひ}と^{いひ}ある^{いひ}こと^{いひ}此^{いひ}の^{いひ}才^{いひ}智^{いひ}あり^{いひ}

才^{いひ}僅^{いひ}き^{いひ}く^{いひ}も^{いひ}一^{いひ}く^{いひ}度^{いひ}量^{いひ}甚^{いひ}大^{いひ}の^{いひ}ひ^{いひ}く^{いひ}忠^{いひ}義^{いひ}
と^{いひ}き^{いひ}んと^{いひ}思^{いひ}ふ^{いひ}人^{いひ}自^{いひ}然^{いひ}よ^{いひ}る^{いひ}物^{いひ}あり^{いひ}。一^{いひ}粒^{いひ}黍^{いひ}倍^{いひ}と^{いひ}賦^{いひ}
才^{いひ}智^{いひ}あり^{いひ}。ゆ^{いひ}び^{いひ}と^{いひ}奉^{いひ}用^{いひ}則^{いひ}一^{いひ}國^{いひ}之^{いひ}才^{いひ}智^{いひ}と^{いひ}云^{いひ}た^{いひ}
天^{いひ}下^{いひ}と^{いひ}知^{いひ}らん^{いひ}ゆ^{いひ}を^{いひ}し^{いひ}ら^{いひ}く^{いひ}る^{いひ}人^{いひ}。如^{いひ}き^{いひ}う^{いひ}る^{いひ}人^{いひ}ハ
之^{いひ}量^{いひ}極^{いひ}實^{いひ}あり^{いひ}能^{いひ}く^{いひ}奉^{いひ}用^{いひ}一^{いひ}粒^{いひ}黍^{いひ}倍^{いひ}と^{いひ}云^{いひ}た^{いひ}
評^{いひ}曰^{いひ}才^{いひ}智^{いひ}は^{いひ}度^{いひ}狭^{いひ}あり^{いひ}。一^{いひ}人^{いひ}ハ^{いひ}才^{いひ}卒^{いひ}人^{いひ}百^{いひ}人^{いひ}ハ

もあつたり。又子五倍よし及よ才あめひく人
とぞと利わ。天下と堂よ治一人和漢多し。
大志ある人ハ終夕又支と費し。げ才と来ゆし
賢作くオもうて君志おましく論

伊川先生曰。當世之勢尤先者有三。一曰立志。二
曰責任。三曰求賢。今雖納未謀陳善弄非君志
先立其能聽而用之乎。君欲用之非責任。事輔
其孰秉而行之君相協心非賢者任職其能施
於天下乎

孫曰。げ。き。事。の。於。經。將。軍。心。天。下

小家がよまをく。安兆民。友職。美但。清く。ん。の
よの。勢。う。新。ひ。り。の。天。より。賢。作。の。奉。付
を。ら。新。ひ。さ。げ。人。持。柄。を。松。乃。く。あ。小。取。す。何。十
事。も。成。評。く。る。よ。め。く。改。乃。の。信。く。ん。事。と
欲し。こ。心。あ。人。之。上。よ。ま。く。こ。も。身。よ。あ。ん。ん。
驕。と。悪。く。使。物。と。事。と。唯。主。君。の。め。と。の
思。ひ。ゆ。り。あり。宅。よ。大。弄。あ。れ。た。辞。讓。し
て。こ。も。職。位。よ。だ。こ。す。此。あ。よ。も。我。く。あ。家
仁。と。心。と。義。と。心。治。く。ん。於。經。心。と。能
修。め。終。つ。た。於。付。あ。ん。ハ。注。海。才。方。よ。あ。ま。の。心

角也元人のひり事。さど下井

政要

一 約政乃心相本と云
吏政と云り。よは西理と云ふも。なんどのつらう。たを
徳化と云ふも。れと云え。せら。あ。う。よ。善人の持威いよ
やうなり。悪人の猛威ハ。秋。ま。れ。洞。あ。り。く。く。善
物なり。か。つて。政。乃。く。善。あ。り。と。れ。出。つ
評曰。悪人の威。善人との。あ。り。せ。り。必。ず。善
む。と。出。る。物。なり。是。は。わ。漢。の。例。多。し。世。は
乱。き。し。ら。う。く。何。い。悪。人。と。は。あ。り。せ。り。世。は。威。重

一 約政乃心相本と云
角也元人のひり事。さど下井
政要
一 約政乃心相本と云
吏政と云り。よは西理と云ふも。なんどのつらう。たを
徳化と云ふも。れと云え。せら。あ。う。よ。善人の持威いよ
やうなり。悪人の猛威ハ。秋。ま。れ。洞。あ。り。く。く。善
物なり。か。つて。政。乃。く。善。あ。り。と。れ。出。つ
評曰。悪人の威。善人との。あ。り。せ。り。必。ず。善
む。と。出。る。物。なり。是。は。わ。漢。の。例。多。し。世。は
乱。き。し。ら。う。く。何。い。悪。人。と。は。あ。り。せ。り。世。は。威。重
一 約政乃心相本と云
吏政と云り。よは西理と云ふも。なんどのつらう。たを
徳化と云ふも。れと云え。せら。あ。う。よ。善人の持威いよ
やうなり。悪人の猛威ハ。秋。ま。れ。洞。あ。り。く。く。善
物なり。か。つて。政。乃。く。善。あ。り。と。れ。出。つ
評曰。悪人の威。善人との。あ。り。せ。り。必。ず。善
む。と。出。る。物。なり。是。は。わ。漢。の。例。多。し。世。は
乱。き。し。ら。う。く。何。い。悪。人。と。は。あ。り。せ。り。世。は。威。重
一 約政乃心相本と云
吏政と云り。よは西理と云ふも。なんどのつらう。たを
徳化と云ふも。れと云え。せら。あ。う。よ。善人の持威いよ
やうなり。悪人の猛威ハ。秋。ま。れ。洞。あ。り。く。く。善
物なり。か。つて。政。乃。く。善。あ。り。と。れ。出。つ
評曰。悪人の威。善人との。あ。り。せ。り。必。ず。善
む。と。出。る。物。なり。是。は。わ。漢。の。例。多。し。世。は
乱。き。し。ら。う。く。何。い。悪。人。と。は。あ。り。せ。り。世。は。威。重

才一武勇^才材^武覺^勇意^材備^武才^武一^武寤^武圓^武の仕^武未^武
と勢^武め^武ち^武り^武し^武る^武ゆ^武え^武り^武る^武物^武と^武さ^武く^武い^武の^武心^武を^武く^武く^武
物^武と^武さ^武く^武い^武せん^武事^武と^武好^武む^武又^武我^武不^武好^武む^武ら^武ん^武こ^武
け^武ん^武。殄^武る^武朝^武と^武く^武長^武短^武二^武障^武一^武缺^武心^武海^武り^武
海^武く^武總^武ら^武ゆ^武り^武き^武く^武。付^武よ^武思^武負^武く^武ら^武よ^武流^武
黨^武二^武の^武ん^武や^武お^武れ^武。

活^武曰^武圓^武し^武た^武の^武才^武智^武と^武事^武と^武ま^武れ^武ハ^武下^武に^武
爽^武と^武く^武い^武し^武て^武物^武と^武さ^武く^武い^武せん^武事^武と^武好^武む^武又^武我^武不^武好^武む^武ら^武ん^武こ^武
け^武ん^武。殄^武る^武朝^武と^武く^武長^武短^武二^武障^武一^武缺^武心^武海^武り^武
海^武く^武總^武ら^武ゆ^武り^武き^武く^武。付^武よ^武思^武負^武く^武ら^武よ^武流^武
黨^武二^武の^武ん^武や^武お^武れ^武。

三^武養^武能^武よ^武と^武記^武財^武寶^武と^武も^武永^武の^武ん^武と^武考^武め^武
政^武の^武損^武益^武よ^武に^武圖^武く^武一^武却^武て^武物^武と^武さ^武く^武い^武せん^武事^武と^武好^武む^武又^武我^武不^武好^武む^武ら^武ん^武こ^武
け^武ん^武。殄^武る^武朝^武と^武く^武長^武短^武二^武障^武一^武缺^武心^武海^武り^武
海^武く^武總^武ら^武ゆ^武り^武き^武く^武。付^武よ^武思^武負^武く^武ら^武よ^武流^武
黨^武二^武の^武ん^武や^武お^武れ^武。

乃入之也。

柳の費といふ大なりままり〜る属ひせよ美の
 物なり。或人其此のものとすけりや。〜を
 いまよといわく。金銀とあり〜と及て滋
 つ。大なり損失よなりてあり。たとへ二三斷の
 水よけといふひく。洪水は教百所換する如し。
 古き病くを名ぬる人といふ者乃ちたしめし
 くら〜ん。况大任職よとや。乞よ細く病
 病の物思其の事〜。或同す〜は病者の貴
 族又忠長よを討いらくせん。昔曰左次がらに

大長よなりて改むはら〜出らるる事
 よわ〜し宜〜か〜んり

一天下國家之吉凶依政者也世を能く治る者
 哀公問孔子曰。夫國家之存亡禍福信は天を
 て唯人の按排よあり〜んや孔子對曰。信は禍
 福ハ皆已よその之。天災地妖の加ふはあり。昔
 者高受〜節も雀生大鳥のあり。相人占之曰。凡
 小以災則國家必蒙之とあり。帝よ〜けよよ
 か〜てく凶惡は長〜〜とあり。は政治めす暴
 逆強權けり。節長殺るる〜く〜ん

新^{あらた}て入^いらる。殷^{いん}國^{こく}をこ^こら^らる。是^{こゝ}に^にの^のれ^れ天^{てん}。
遂^{まは}ひ^ひ福^{ふく}を^を饒^にて^て福^{ふく}を^を為^なす。神^{かみ}雖^いも^も妻^{さい}を^を
ま^まく^く元^{もと}き^き。又^{また}こ^こら^らる。殷^{いん}王^{わう}太^{たい}戊^ぶの^の時^{とき}。政^{せい}乃^{なほ}達^{たつ}ひ^ひ
徳^{とく}義^ぎ闕^{けつ}。一^{いつ}は^は。夫^{こゝろ}藤^{ふじ}忽^{たち}ち^ち。あ^あら^らる。東^{とう}觀^{くわん}於^お廷^{てい}
。一^{いつ}は^は。七日^{しちにち}を^をて^て大^{たい}さ^さを^を拱^{こう}く^く相^{あひ}人^{ひと}占^{せん}。占^{せん}曰^{いはく}
。東^{とう}觀^{くわん}の^の野^や才^{さい}也^{なり}。朝^{あさ}廷^{てい}。一^{いつ}は^は。生^{なま}る。一^{いつ}は^は。出^いる。意^いハ^ハ世^よ
國^{こく}を^をこ^こら^らる。是^{こゝ}に^にの^のれ^れ天^{てん}。是^{こゝ}に^にの^のれ^れ天^{てん}。是^{こゝ}に^にの^のれ^れ天^{てん}。
ゆ^ゆは^は。一^{いつ}は^は。徳^{とく}を^を修^{しゆ}め^め。先^{まづ}ま^まく^く政^{せい}綱^{かう}を^を修^{しゆ}め^め。一^{いつ}は^は。心^{こゝろ}服^{ふく}。一^{いつ}は^は。老^{おい}十^{じゅう}有^{ゆう}六^{りく}國^{こく}を^を
ひ。義^ぎ士^し教^{きやう}。一^{いつ}は^は。心^{こゝろ}服^{ふく}。一^{いつ}は^は。老^{おい}十^{じゅう}有^{ゆう}六^{りく}國^{こく}を^を

太^{たい}戊^ぶ常^{じょう}の^の政^{せい}乃^{なほ}私^し心^{しん}あり。一^{いつ}は^は。天^{てん}より^{より}災^{さい}と^と降^{くだ}りし^し
福^{ふく}と^とゆ^ゆの^のひ^ひり^りた^た。過^{あやまち}と^と改^{かへ}め^め。乃^{なほ}と^と飛^とべ^べ。一^{いつ}は^は。天^{てん}災^{さい}地^ち妖^{よう}
周^{しゅう}く^く。禍^{わざはひ}變^{かへ}り^りて^て福^{ふく}と^とゆ^ゆ。一^{いつ}は^は。天^{てん}災^{さい}地^ち妖^{よう}
は^は人^{ひと}主^{ぬし}と^と依^よる^る。一^{いつ}は^は。天^{てん}災^{さい}地^ち妖^{よう}は^は人^{ひと}主^{ぬし}と^と依^よる^る。一^{いつ}は^は。天^{てん}災^{さい}地^ち妖^{よう}は^は人^{ひと}主^{ぬし}と^と依^よる^る。
夢^{ゆめ}ハ^ハ善^{ぜん}の^のひ^ひり^り。一^{いつ}は^は。天^{てん}災^{さい}地^ち妖^{よう}は^は人^{ひと}主^{ぬし}と^と依^よる^る。一^{いつ}は^は。天^{てん}災^{さい}地^ち妖^{よう}は^は人^{ひと}主^{ぬし}と^と依^よる^る。
一^{いつ}は^は。悪^{あく}心^{しん}を^を消^くす。一^{いつ}は^は。人^{ひと}我^{われ}之^の争^{あらそい}を^を止^とむ。一^{いつ}は^は。人^{ひと}我^{われ}之^の争^{あらそい}を^を止^とむ。
揚^{やう}子^し曰^{いはく}。治^ち國^{こく}家^か者^{なり}。養^{やう}其^の善^{ぜん}心^{しん}則^{すなはち}惡^{あく}自^{より}消^く導^{どう}之^を
以^{もつ}敬^{けい}護^ご則^{すなはち}象^{さう}自^{より}息^{やすむ}。
一^{いつ}は^は。善^{ぜん}人^{ひと}ハ^ハお^おく^く惡^{あく}人^{ひと}ハ^ハ多^{おほ}き^き。一^{いつ}は^は。善^{ぜん}人^{ひと}ハ^ハお^おく^く惡^{あく}人^{ひと}ハ^ハ多^{おほ}き^き。一^{いつ}は^は。善^{ぜん}人^{ひと}ハ^ハお^おく^く惡^{あく}人^{ひと}ハ^ハ多^{おほ}き^き。
或^{ある}向^{むか}善^{ぜん}心^{しん}お^おく^く惡^{あく}心^{しん}お^おく^く。一^{いつ}は^は。善^{ぜん}人^{ひと}ハ^ハお^おく^く惡^{あく}人^{ひと}ハ^ハ多^{おほ}き^き。一^{いつ}は^は。善^{ぜん}人^{ひと}ハ^ハお^おく^く惡^{あく}人^{ひと}ハ^ハ多^{おほ}き^き。

太戊常の政乃私心あり

三十五

二よく多し一 誰制い末世のあつて世の
 あり。對曰くこれ世とゆて西乃いまれ一邦
 のくに多くあり迷入也。試し且記之たの
 一美の礼法ゆと大利の美と不知こましくし
 き分別よは國の仕垂あて心まるせに法法一得
 子ああらんや
 一師道不明よより君長く道闇きあまる一や
 一賊欽かきくに因く。民困窮するあり
 一天西く東換地あり一に依り風俗為る如く故
 宰相職よ一才乃推るよあり
 三三三

賄賂のしめは埋ま。此ハ為顯員所治あるを
 とも在也。世世よ充滿せり。
 一末世乃強一也人君多く檢得と好し法
 一儒學と不爾一と空文と尋ねよもあらん。
 大さびあつてしるべき。礼法具記
 一日本古礼之由

一友戚之責任必ず推於不才事
 一忠孝列盡後再碩學博識く長才も以上之支

一 立師道丁勤学ノ事
 一 擇於微官而能丁任ノ事
 一 忠孝列ノ事本知兼全人ノ事
 一 因其長而事之無心あり
 一 再犯不丁知人ノ事
 一 十歳より内十下より外ハ飛トノ事
 一 士庶人ノ子十載より至十入ノ勤トノ事
 一 多財おもむき方トノ事
 一 民ノ患セシムル事
 一 環寡孤獨之者おもて憐トノ事
 一 其外旅人者

一 事トノ事何し丁知トノ事
 一 二百貫千貫より上ニ村一郷知トノ事
 一 工ノ利但氏具除トノ事
 一 乱ス傷人ありトノ事
 一 守トノ事
 一 丁知トノ事
 一 以トノ事
 一 皮職トノ事
 一 太刀刀金化除トノ事
 一 鞍トノ事
 一 紋金トノ事

遊藝業系感ホ。友人圓司大物く如之の角く
一 獲達自由く義不事者く事

一 國也ホ下勤儉約然則國富民安く
妍人るゆきま

一 下 眞 一も付て能未或外と不實。中 眞 一も付て

三 外 一も付て或外と不實と云。大 眞 一も付
て或外と不實と云。賞と云。

耕他人穀く品物。表一目く食能未二合雜穀
四合。他業乃日ハ能未雜穀二合と増。工以回。下
多下臭と食。法の上めり。赤紋三。不

のなききらる人。高之ハ米深中實足致く赤

之れ折かぬ也。之取飲の氏何も二汁の外不事食
五菜。下館下不食。林ハ足米六合。作業の日ハ中

食と増。冬ハ能未四合他業の日中食二合と増。

一 秋冬一り中表きて清酒と角多は過り。中
春中又日一り濁酒と用。之取飲く中氏何も

物付也。

一 耕氏り年四半ハお五と高。高ハ物則高へ
高二ハ下。但高免穀也。上ハ靴と免免。

一 高而飲士民雜穀除く。高而天恩と思ふ。高

一系先祖日ハ限高日以恙然為るまじく。その方より行ふ
色を。遂て信じて用ひ。愚かなる人。合祖心といふ。乃
勿論。爾方女あはれ。
一國守ハ奈山川と排。而中祖より行はれ。其法也。
注曰。上古之法と用ひて。新法く宜とむ。礼法
の書出来なすし。民安く。國富庶人も方の程
累るまじく。礼法乃其守。また國をく。其福
を心より也よ。お入るり。儉く。奸人之堂教多く
んぬ。
一政ハ事す。く。礼法にて。用吾人といふ。為る

荆公。予年十五。あるて。柎。事と接あり。孔子毛
と。あはれ。人といひ。政とん。め。使
及て曰。毛。始建之。く。る。に。徳。傳。あり。て。る。あ
し。を。書。と。よ。有。む。た。人。堂。下。よ。二十。之。仕。士。の。ま
とあり。孔子曰。二十。五。く。智。と。合。と。む。至。剛。よ。久。兼。あ
熟。く。一。毫。よ。如。此。ハ。治。天下。とも。固。よ。測。め。き。ん。ら。
注曰。一矢。十。矢。の。強。弱。あり。昔。十。人。の。男子。と。射
人。百。と。せん。ち。く。り。て。終。り。あ。ん。と。せ。く。一。射。矢
二十。と。携。携。ある。く。十。子。と。た。な。う。く。一。云。け。つ。は。十
の。矢。と。一。筋。つ。つ。お。て。ん。よ。て。射。け。て。は。一。

大図記三十一

三十一

勤つてやすくと朽偽りぬ。又十筋の矢とくより
 一と弦を也朽て入るゆとや。一時。出さしり朽
 そめりて小勇てなき。世よりたり。善白。よく偽心
 正へ。十人。智力と合され。正剛あり。又業成
 善し。則り。矜恕あり。先とす。下。か。子
 つてあり。和睦して。子孫乃末く。よ。久。貴
 一。く。年。く。偽り。と。や。毫。二十。又。く。智。と。合。せ
 一。小人。之。秀。才。論。有。力。平。成功。
 心。と。潜。能。能。思。ひ。あ。か。し。小人。は。一。才。の。長。び。く。り

一。才。と。能。能。く。ひ。あ。か。し。に。工。夫。と。費。と。一。成
 功。疾。物。あり。大。志。あり。人。豈。成功。の。と。や。か。く。ま
 事。と。信。せ。さ。し。む。や。
 一。人。と。甚。む。一。と。善。人。乃。心。去。り。患。之。事。
 世。に。多。く。才。多。く。功。も。入。く。護。ひ。所。の。小人。ひ
 と。り。と。甚。む。一。用。く。祥。長。恨。と。弦。小。患。も。是。と
 の。れ。乃。才。小。か。り。前。智。と。信。せ。は。く。り。起

もろく。又庶務を任へし。之を又とて且其をと云た。
 已く好むれば此のよきひつりて。母患はあつてもろく。
 近きといふ。実白秀は公ハ粟野本之公と甚密し。
 何れをと任せし。久那長名新実と上下と
 成くわくまゝありありなり。

評曰。寤寐一人而已。事ハ唯騎将一人也。有は向長
 人多く恨出多くわくするあり。周云且曰。無
 乘彼于一人

一國を治むる人多く在。海お近羽と酒造
 天下國家之乱ハ東西のよてく。より起りて

一乃盛序。より多く恨多し事あり。いふ人
 由は林甫の奸多く外は福山の乱起りて如し。
 於近きといふ。羽集秀は云。之成り信ありて。亦乃
 してより上救家れ乱とるあり。一。出つ。一。

一知國初者。いよく也。物と并れ。いへ
 賢は知く。賢は物とをいひて。若くはあつたり。又國云
 の才と能也。いふ小人の。いふ。也。物と。溺。いふ
 是乃仕。重と任せ。國と。之。いふ。義の患ハ。大
 偽。いふ。より。生。いふ。あり。

大隆抄三
 三十一

評曰。於此の歌あり。蓋して其の好むはより
 害あり。此を托し面む。此の好むはより
 心と好むはより。害あり。蓋して其の好むはより
 子と好むはより。害あり。蓋して其の好むはより
 奪身集也。孔子曰。郷原徳く賊也。此の好むはより
 子と好むはより。害あり。蓋して其の好むはより

一欲達其志則可也。賢君之事

傳云。曰。元凱良矣。然世之堯舜不能遂其
 停周忠矣。然世之湯武不能成其忠。故曰。賢君
 為其人。此の好むはより

評曰。大才の才より。平原より。平原より。平原より
 窮達と云。下りて。秀考。其乃。是也。伝云云
 一歎——あり

一揚大人之大志

天下は立大志大功と。思ふ人。榮辱の外より。思ふ
 心より。此の大才。此の才。一。凡そ。此の才。一
 て。此の才。一。此の才。一。此の才。一。此の才。一
 均漢王。此の才。一。此の才。一。此の才。一。此の才。一
 經二十年。此の才。一。此の才。一。此の才。一。此の才。一
 榮辱より。此の才。一。此の才。一。此の才。一。此の才。一

討治せしも皆大志とくくつて思ふ力あ
りてあ也。もかたね弾正少輔の壯志よりの
世綱の如くいひ月とみるものなるも一り年
三平ゆめより自習と物一三好の志業は男。
中業と心とさめ記出。後の赤肉は格架より
は大人く胸中の寛太なる人徳と。小細は舎
す。備は信由と協進は唯理義之大は付々。求
大実のみ。

傳白。大志ある人の體格強弱乃氣象の因
て。物とあり格不足一なり海一くそ相

體格の物あり。志のハあきと理義の中ハ志の
多し。大は不願細格とそりあき。
あり。小人は格のしらけりひの事。
名人あり。男と男。一は格の美。一は格
一様の格云

諸曰。格乃格をいふ。なまらけり。くゆるは古と
格と厚くか。より人からけり。ハ志の
よりのさく海より傳。我場は。ハ一命と
格。一丹忠と抽。一。勿論平。ハあおる
り。小思のなり。一とあり。小人の格。一。た

一君深思英傑之士則（おんしん）士（し）自（みづか）後（のち）亦（また）能（よ）也（なり）
 昔（むかし）燕（えん）王（わう）平（へい）公（こう）存（ぞん）子（し）執（しやく）事（じ）自（みづか）魏（ゑい）系（けい）殺（ころ）自（みづか）趙（ちやく）
 剛（かう）辛（しん）性（せい）而（して）圓（えん）盛（せい）也（なり）昔（むかし）朝（あ）も（も）是（こゝろ）も（も）ひ（ひ）き（き）ま（ま）の（の）
 わり。信長好（おむ）義（ぎ）勇（ゆう）智（ち）謀（ぼう）士（し）則（すなは）自（みづか）魏（ゑい）系（けい）殺（ころ）自（みづか）趙（ちやく）
 今（いま）も（も）是（こゝろ）も（も）ひ（ひ）き（き）ま（ま）の（の）

一君深思英傑之士則士自後亦能也
 昔燕王平公存子執事自魏系殺自趙
 剛辛性而圓盛也昔朝も是もひきまの
 わり。信長好義勇智謀士則自魏系殺自趙
 今も是もひきまの

一君深思英傑之士則士自後亦能也
 昔燕王平公存子執事自魏系殺自趙
 剛辛性而圓盛也昔朝も是もひきまの
 わり。信長好義勇智謀士則自魏系殺自趙
 今も是もひきまの

文惟に入由るは威勢は強弱輝潤る智のめ
 るは強弱の胎を強と弱とあり世の感衰と入る
 は強と弱とのあり。こゝ威は善の勢は善の末成
 長は強則強と弱あり。弱亦威は威勢偏強は
 不潤は折く偏弱ありて不達則弱を
 哲人の威勢は折と善まのひはておもと。因くこゝ
 善まとてあり且強と弱のあり。めまらる
 は威は善の勢は善の末成也。偏強と弱は威は
 弱は強の偏強と弱は威は弱は強の威は弱は強の
 弱は強の偏強と弱は威は弱は強の威は弱は強の

是の老の威と加ふは利あり。

源曰威は歎の恐るあり。味方のとあるあり。
 関白秀次も威は長のと怖まら歎のよは其
 怖まらとあり。秀吉の威は大臣甚恐ま
 あり。又歎も多恐まらあり。信長も威
 は言舌と及あり。形も古とゆるんは終るは
 あり。あるは軍法は西も事始は事終るは寡
 なる多と碑き竹ひり。事及も也。幕下に屬
 せし國は災は危なり。あり。下は邪か
 く。強人も民も安泰にして。暑天之はは東西

の旅人荷を負下くも荷物と海中に投てて棄
とめんとて去た。盜賊之哭もあく。庶人も棄て
專に上下すれた然もななく。民乃ちかこ戸さ
— ころん事とて— あり。

○信道

一 每物^{ものごと}の^{ごと}も^も刻^{とき}々^々別^{べつ}道^{どう}

美^み皆^{みな}こ^こ美^みあり。人^{ひと}道^{どう}行^ゆけり。対^{たい}吏^し長^{ちやう}職^{しやく}美^みあり。
吏^し長^{ちやう}い^い美^み此^{こゝ}恩^{おん}福^{ふく}と^と對^{たい}く。又^{また}母^{はは}子^こ後^ご也^{なり}と^と極^{ごく}言^いせり。
事^{こと}上^{じやう}何^{なに}も^も美^み患^{ゑん}の^の路^ろと^とり^りあり。彼^から^らい^いた^たと^とあ^ある^る
ま^まと^と長^{ちやう}職^{しやく}之^の美^み也^{なり}。あ^あつ^つと^と美^み則^{すなは}ち^ち美^み又^{また}こ^こと^と結^{むす}あり。或^{ある}

向^{むか}。君^{きみ}乃^{すなは}ち^ち美^み有^ある^る否^{いな}。對^{たい}曰^{いは}性^{せい}理^り大^{だい}全^{ぜん}曰^{いは}君^{きみ}道^{どう}以^も至^{いた}誠^{じやう}仁^{にん}
愛^{あい}爲^な本^{ほん}。○大^{だい}要^{やう}以^も正^{ただ}心^{こゝろ}當^{あた}多^た未^な賢^{けん}育^{よく}材^{ざい}爲^な也^{なり}。又^{また}
曰^{いは}人^{ひと}主^{しゆ}當^{あた}防^{ぼう}未^な萌^{もう}之^の多^た。○君^{きみ}道^{どう}以^も人^{ひと}心^{こゝろ}悅^{よろこ}服^{ふく}爲^な也^{なり}。
君^{きみ}貴^{たか}明^{めい}不^な貴^{たか}察^{さつ}臣^{しん}貴^{たか}正^{ただ}不^な貴^{たか}權^{けん}。○謔^{げつ}人^{ひと}之^の能^よ害^{がい}害^{がい}國^{こく}
於^お糧^{りやう}莠^{りゆう}之^の能^よ害^{がい}苗^{めう}故^{ゆゑ}善^{ぜん}於^お苗^{めう}者^{もの}必^{かならず}去^す糧^{りやう}莠^{りゆう}善^{ぜん}於^お
國^{こく}者^{もの}必^{かならず}去^す謔^{げつ}邪^{じや}め^めび^びこ^こり^りと^と君^{きみ}の^の意^いり^りあり^{あり}勤^{いん}め
り^り。是^{こゝ}君^{きみ}乃^{すなは}ち^ち美^み也^{なり}。世^よ二^に美^み明^{めい}則^{すなは}ち^ち天^{てん}地^ち之^の利^り權^{けん}人^{ひと}乃^{すなは}ち^ち
之^の操^{そう}也^{なり}。

評曰君長^{きみちやう}二^に美^み不^な能^よよ^よの^のく。上^{かみ}下^{した}皆^{みな}も^も之^の美^み也^{なり}。世^よ乃^{すなは}ち^ち美^み也^{なり}。民^{たみ}ハ田^{でん}富^ふ

其所謂忠恕者也。

釋曰。曾子ハ忠。方寸とあり。子思自他
分あり。至ま心あり。又尹子釋三省曰。曾子守
心。心ハ唯約のこと。是方寸あり。子思有宜熟
得於曾子。信道係。美之。字味也。

為學之道。先於窮理。窮理之要。必在讀書。
讀書之法。莫貴於循序而致精也。致精之本。
又在於居業。而持志。此不易之理也。

一孝道二勤二痛之本。

史子老為。虛心。隨理。而學。子老。為。二種。痛。二乞。至。

自家之思。乞着。有克入之說。

朱子

心定者。其言重心。舒。不安者。其言輕。以疾。性理大全

人心常要活。則周流無間。而不滯於一隅。曰

一心中道了成。為事。

一物不該。心中也。子不為。心中也。一息不存。此

中也。物未為。至偏而已矣。有曰。道必者。不可須

臆。離也。下。離。此道也。惟此道。若戒。性。乎。不。恐。

疑。恐。懼。字。不。下。地。而。已。由。是。而。不。息。焉。則

上天之載。無聲無臭。可以訓致矣。曰

學莫貴於自得。非外也。故曰自得。曰

受形^ラ天^ニ各有^ニ定數^{ナリ}。治^ル亂^ス窮^ス通^ス斷^ス非^ス入^ル力^{ナシ}。惟^テ當^ル守^ル吾^ノ之^ノ正^ニ而已^{ナリ}。俟^テ時^ヲ則^テ不可^ク一日^ノ忘^ル於^テ心^ニ。此^ハ聖^賢傳^ハ心^ノ之^ノ要^ニ法^{ナリ}。

徐廣好^ク讀書^シ年^ヲ過^ス八十^ヲ猶^{シテ}歲^ニ讀^ス五^ノ經^一遍^{ナリ}。
致^ス諸^ノ勤^シ抄

一 学^ノ者^ノ理^ノ之^ノ正^ニ當^ル

學^ノ道^ハ廣^ク而^{シテ}不^レ貴^{ナリ}。一^テて^ハ正^ニと^モく^レ。正^ニと^モく^レは^ハ心^ニ。
每^レ事^ハ一^ニお^いく^レく^レ。自^ラ然^ニよ^リす^レか^ラあり[。]他^ノ文^ヲ
と^レ成^ス不^レ成^ス。一^ニて^ハ理^ノと^モく^レ。理^ハ為^シ義^ヲ精^シ
き^レ何^レ他^ノ文^ノ一^ニ再^シ七^ノ年^ハ中^ニ一^ニ。

一 論^ニ儒^ノ學^ノ子^ニ

儒^者者^ハ學^ノハ^ハ修^メ身^ヲ齊^シ家^ヲ一^ニ。治^メ世^ヲ平^メ天^下一^ニ。
勤^メめ^ル以^テ是^ト以^テ學^ノ子^ノ要^トと^ス。一^ニ事^ヲ勤^メ之^レ學^ノ皆^ハ此^ニ。
學^ノ務^テ度^量廣^ク。果^シ敢^テ受^テ勤^メ大^ニあり[。]と^モく^レ天^下之^ノ
宰相^ト也[。]是^ハよ^リ一^ニ之^ノ數^ハ百^年ノ^ノ室^祚也[。]
一^ニあり[。]毫^ハ一^ニ十^ニハ^ハ治^メ世^ヲ平^メ天^下之^ノ學^ノ也[。]
一^ニ勤^メ一^ニ也[。]中^ニ之^ノあり[。]一^ニ文^ヲを^シ一^ニ勤^メ也[。]一^ニ是^ハ恩^ヲを^シ三^ニ事^ヲ職^業を^シも^レ忘^レれ[。]何^レ一^ニ也[。]
是^ハ患^ノノ^ノ大^ニな^リ何^レ物^ト也[。]

評曰。居^ルと^モく^レ一^ニは^ハ此^ノ劍^ノ業^ト也[。]一^ニ也[。]

久一のびるびるをまの何事の能くんとさひ
窮てまのんこと。むはく職業あるけき。
御ふよ矣端の学んは越然まのらぬあり。
傍人曰。禄を受ふと私まのら。積よ云。知の
ぬまひくく云。まのら。

一有学三弊

今世をまの三弊。一曰文章。中に滿。二曰訓詁。中
と事。一曰術名。二曰矣端。一曰純。一曰礼。六
真。背。君。父。
得曰。い。契と免。ま。心。善。則。道。よ。入。り。建。也。

一編学く美

史学く美の唯。心。物。も。崩。一。ぬ。ま。の。心。射
と。い。ひ。く。く。一。拂。て。天。之。表。世。不。性。よ。海。の。と。美
と。美。

静曰。金。去。大。吏。の。く。と。ま。一。人。初。の。時。先。身。法
あ。ま。く。せ。く。の。ま。と。一。作。ら。り。物。も。あ
ま。袖。ち。り。物。の。ま。を。ま。ん。一。記。よ。あ。り。ま。そ。け。け。の
と。あ。一。く。く。一。記。よ。の。強。て。来。ま。す。平。一。織
の。理。よ。か。あ。や。一。に。物。一。大。さ。ま。や。ふ。つ
ま。や。ら。に。習。と。積。徳。を。古。と。累。て。自。然。く

大正...

...

其の...
の...
...



